



工法への理解を深めた

道農政部 反転均平工法研修会

施工状況間近で見学

営農者の声聞き効果確認

【岩見沢発】道農政部は、18日、空知総合振興局発注の工事現場で、反転均平工法の普及拡大に向けた研修会を開催した。本庁および振興局、土地改良区の職員、農家など約60人が参加。施工状況を間近で見学したほか、同工法を採用したほ場で営農している農家の声を聞くなどして、その効果を確認した。

道農政部では、効果的な営農が行えるよう、全道各地では場の大区画化整備を

進めているが、近年は整地工事費が増加。低コスト工法を積極的に導入していくことが求められている。反転均平工法は、従来工法に比べて施工時間と工事コストの縮減が図られる一方、採用に当たってはほ場の条件などを理解する必要がある。このため、農家や若手職員等を対象とした現地研修会を開催している。今回の現場は、深川市内の「経営体菊水二期地区41工区」(日成建設・西出興業JV施工)。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスクの着用や検温、手指のアルコール消毒、ソーシャルディスタンスの確保を徹底して研修会

を実施した。はじめに、空知総合振興局の担当者が地区概要を説明。反転均平工法施工後のほ場で営農を行っている安念ファームの安念敏弘氏は「施工が早く感じた」「次年度の営農に関して支障はなく、収量の違いもない」と感想を述べた。

施工した日成建設(株)の担当者は「通常工法の半分程度の時間で施工できるので、施工性が良い」と効果を強調。さらに「プラウで起こすため、ほ場が乾いている状態が望ましく、天候に左右されやすいことから、夏期が施工しやすい」とした。

このあと参加者は、実際の作業状況を見学。プラウ反転後のほ場を確認したほか、プラウの形状や作業機械の仕組みなどについても理解を深めていた。